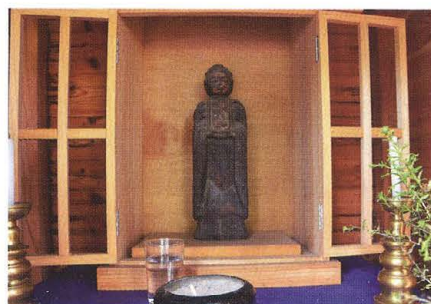
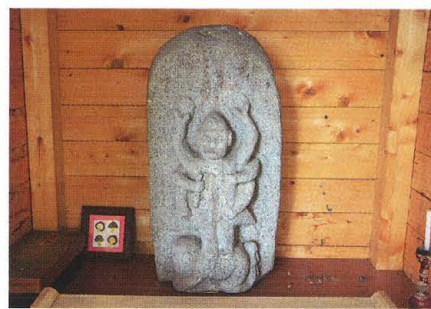


# 室のえにしに平八幡

(市内にある指定文化財を紹介します)



## ごたい 五の平の大イチョウ

所在地：松尾寄木第27地割91番地2地内(高橋正蔵氏所有)  
指定年月日：昭和50年10月11日(旧松尾村)

五の平の大イチョウは、推定樹齢170年、目通りの太さ(周囲)は5.55㍎と、先月紹介した井森のイチョウより若く小振りですが、樹高は21㍎あります(いずれも指定時)。この木もメスで、たくさんの実を付けます。樹下には正面に一面六臂の青面金剛が彫られた庚申供養の石仏(写真右上)が安置され、南側には木造の地藏菩薩像(写真右下)が納められた祠、北側には稲荷社が祀られています。字五の平付近は寄木の中心部で、昔から「中郡」と呼ばれてきました。駒形神社、稲荷神社、八幡神社、八坂神社などが天照皇太神宮(大神宮)を取り囲むように配置され、昔はここに「五大堂」と呼ばれる大地蔵堂があったと伝えられています。当時の山門跡と思しき場所には、現在も石造りのお地藏さんが鎮座し、その面影をとどめています。明治になって地藏尊は平館の大泉院の地藏堂に移されましたが、その大泉院も寛文五年(1665年)に寄木地内に創建されたものが、後に火事で消失したため平館の現在地に移転再建(年代不詳)されたもののだといひます。神社仏閣と巨木に囲まれたこの地の、往事の隆盛ぶりはいかばかりであったことでしょう。

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 畑謙吉)

【参考文献】松尾の文化財(1980年、1983年村教委)、西根地方の文化財～松尾村の巻(1977年佐藤連蔵＝北光タイムス連載)、湧口と碑(1996年松尾村)、幡龍山大泉院誌(1981年護持会)、岩手郡の伝説(1979年太田忠雄)、野仏の見方(2003年小学館)、いわてのお寺さん(2003年テレビ岩手)

### 編集後記

寒さのせいか肩凝りがひどく、湿布など試してみましたが、結局は運動不足が原因。一念発起しウォーキングを始めたものの、10日後、雪が降って終了。雪のせいかな？いえ、「意志」が弱いだけ。▽統計調査員の宇土澤さんと北館さんが統計功労者として大臣表彰を受けました。2人とも調査員歴50年以上です。強い「意志」と「使命感」を持ってやってこられたのだと思います。本当におめでとございます。(齋藤)

2カ月ぶりの編集後記。10月は生まれて初めて入院を経験しました。関係する人々には、ご心配とご迷惑をおかけしました。▽今年こそ八幡平の紅葉を写真に収めようと意気込んでいたのですが、退院したときには見頃を過ぎていたと聞き残念。来年こそ「30代になると体が衰える」とは言われていましたが、自分の体の確実な衰えを実感しました。「風邪は万病の元」皆さんも体調にはお気を付けてください。(北口)

※広報はちまんたい12月1日号(No. 140)の印刷経費は1部43.47円(税込)です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所総務課広報統計係(☎・内線1218)まで。

